

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 27-1-012

補助事業名 平成27年度 自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する事業 補助事業

補助事業者名 公益財団法人 日本自転車競技連盟

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

五輪種目以外の競技については、毎年開催される世界選手権大会をはじめとする国際大会に選手団を派遣し活躍することにより自転車競技者の増加が見込まれ、自転車競技の普及、振興に寄与すること。

(2) 実施内容

1. 五輪種目以外の世界選手権大会への派遣

①室内

派遣大会名—[2015年度 室内自転車競技世界選手権](#)

派遣先—マレーシア／ジョホールバル

派遣期間—平成27年11月17～24日

サイクルサッカーは村上裕亮／岡嶋紘次ペアでの参加で、Bリーグ2位となった。1日目を4戦全勝の好成績で折り返し、得失点差では圧倒的有利だったものの、2日目の対スペイン戦に敗れ、悔しい結果となった。

サイクルフィギュアは女子シングル参加16名中、近藤が11位、佐藤が15位、男子シングル参加21名中、芝山が17位、中川が18位であった。女子11位の近藤と、男子17位となった中川は世界選手権初出場ながら堂々とした演技を披露。また、世界選手権8度目の参戦となる芝山は自身の大会記録を15点以上上回った。

②シクロクロス

派遣大会名—2015年度 シクロクロス世界選手権

[2016シクロクロス世界選手権 第1日目レポート](#)

[2016シクロクロス世界選手権 第2日目レポート](#)

派遣先—ベルギー フースデン＝ヘンデル

派遣期間—平成28年1月20～2月2日

男子ジュニアの織田 聖はスタートで一度順位を大きく下げてしまったが、すぐに遅れを取り戻し1周目を終えた。さらに力の入った走りを見せ周回を重ねたが、ミスなどが重なり次第に順位を落とし、終盤にはパンクにも見まわれ、トップから6分39秒遅れの59位。

女子U23は今回の世界選手権で新設されたカテゴリーで、坂口聖香は序盤に落車をし、終始集中した走り順位を上げ、トップから4分27秒遅れの21位でゴール。

(別紙5)

女子エリートの與那嶺恵理はスタートで出遅れ、順位を上げることができずトップから7分36秒遅れの34位でゴール。

U23男子の沢田 時は、スタートで前に出ることができず、中盤以降積極的な走りで前を追ったが、トップから4分07秒遅れの34位でゴール。

エリート男子の小坂 光は序盤20位台後半までポジションを上げる走りであったが、中盤に大きく順位を落とした。また、竹之内 悠は後方からの追い上げとなったが、順位をあげることができず、2選手とも-2Lapという結果に終わった。

③ トライアル

派遣大会名—[2015 UCI トライアル世界選手権大会](#)

[トライアル20インチ](#)

[トライアル26インチ](#)

派遣先—オランダ アムステルダム

派遣期間—平成27年8月28～9月8日

9月4日に行われた2015年UCIトライアル世界選手権のエリート(20インチ)で、寺井一希が5位と健闘した。また日本チームは開幕初日の9月1日に国別対抗選手権に出場し6位となった。

2013年の3位から2014年は12位と大きく順位を下げた寺井。2015年は万全の体制で世界選手権に挑む為、世界選手権前に3週間の準備期間を設けて渡航。ワールドカップ2戦とフランスの国内大会の1戦の中で世界のトップ選手と競う事で、現場の空気に慣れる事や、大きく変更となったルールへの対応に腐心してきた。

開催地アンドラの天候は不安定で、雨続きの競技となったが、滑りやすいコンディションの中で持ち前のバイクコントロールが武器となった。同僚の選手達のサポートもあり、最良と言える走りで予選を3位で通過。

決勝の日も天候は雨。競技開始時は小康状態であったが中盤から強い雨が降り出す。ただでさえ「届くかどうかわからない」という高いジャンプを要求される高低差を有する決勝用のコースが、一段と難易度を増し、全ての選手にとって厳しい戦いとなった状況の中、寺井は5位。大きなミスは無かった。足を着いたり、転倒したりというミスを加点方式で採点するトライアル。この決勝の5つのコースの中で唯一寺井のみがノーミス=0点のスコアを記録した。

2. 五輪種目以外のアジア選手権・ワールドカップ派遣事業

① アジア室内・サイクルサッカーワールドカップアジア大会派遣支援事業

派遣大会名—サイクルサッカーワールドカップ アジアラウンド東京大会

[2015チャンピオンズカップ\(世界選手権派遣選手決定戦\)](#)

[UCIサイクルサッカーワールドカップ第3戦\(アジア大会\)](#)

派遣先—BumB東京 スポーツ文化館

派遣期間—平成27年7月03～05日

(別紙5)

サイクルサッカーはRSV大阪が制し、2年連続の世界選手権出場権を得た。

決勝戦は、昨年の代表決定戦（バルカーカップ）と同じ顔合わせのRSV大阪vs蔵前。前半、蔵前が一時3点差までリードを広げるも、後半RSV大阪が蔵前のミスを足がかりに、一気に逆転し優勝。

RSV大阪は、昨年の世界選手権で果たせなかったグループA昇格を目指す。

サイクルフィギュア男子は芦田がベテランらしい安定の演技を見せ、日本の第一人者としての好演で優勝。一方、中川も世界選手権出場標準点をクリア。

女子では近藤が日本新記録の圧巻の演技。自身初の世界選手権出場に向け、弾みをつけた。2位佐藤、3位上嶋も昨年の大会からスコアアップし、全体レベルが向上した。

サイクルサッカー 優勝 RSV大阪（村上裕亮・岡嶋紘次）
準優勝 蔵前（藤田洋介・時倉宗大）
3位 TEAM STARBICYCLE OSAKA 1（蓑原征也・田中勝也）

サイクルフィギュア

男子 優勝 芦田史朗
準優勝 中川凱公
女子 優勝 近藤菜月（日本新記録）
準優勝 佐藤凧沙
3位 上嶋美音



②サイクルサッカーワールドカップファイナル派遣支援事業

派遣大会名—[サイクルサッカーワールドカップファイナル](#)

派遣先—スイス モスナング

派遣期間—平成27年12月03～07日

(別紙5)

世界の強豪クラブの中で対戦することは、チームにとって経験値を上げる絶好の機会であり、目標は勝ち点を得ることだったが、叶わず10位に終わった。参加国は日本以外は全てヨーロッパ諸国（スイス・ドイツ・オーストリア・チェコ）で、会場では日本の参戦が非常に好意的に受け入れられており、士気を高められると同時に、日本をはじめとしたアジア圏のレベルアップを期待されていると感じた。この経験を活かし、チームの成長と日本のレベルアップに繋げたい。



③ アジア室内派遣支援事業

派遣大会名 [第13回アジア室内自転車競技選手権大会](#)

派遣先 中国 マカオ

派遣期間 平成27年8月21～24日

サイクルサッカーは村上・岡嶋が優勝。この大会2連覇を果たした。大会を通じてわずか2失点と、抜群の安定感を見せた。蓑原・田中は勝ち点で香港Aと並ぶも、得失点差で2位を死守。日本が1、2位となった。

サイクルフィギュア男子は、中川が国際大会初出場ながらも、堂々の演技で4位。チャンピオンズカップよりもスコアを伸ばした。

サイクルフィギュア女子は昨年に続きU-15で上嶋が昨年と同じく3位。今年からU-15からエリートクラスとなった近藤は準優勝。佐藤は表彰台を逃した。

サイクルサッカー	優勝	日本A (村上裕亮・岡嶋紘次)
	準優勝	日本B (蓑原征也・田中勝也)

サイクルフィギュア		
男子シングルエリート	4位	中川凱公
女子U-15	3位	上嶋美音
女子シングルエリート	2位	近藤菜月
	4位	佐藤凧沙



(別紙5)

④日韓対抗学生自転車競技大会派遣事業

派遣大会名—[第21回日韓対抗学生自転車競技大会](#)

派遣先—韓国 羅州

派遣期間—平成27年11月02～05日

11月4日・5日の2日間、大韓民国羅州市自転車競技場(333.3m)において開催され、対抗得点は77対76と1ポイント差で惜しくも敗れた。

<スプリント>

男子大学生：小原が予選3位から準決勝を勝ち上がるが決勝で敗れ2位、野上は予選11秒後半で4位。

男子高校生：予選で日本選手は2人とも12秒台と日本では考えられないような記録。一方で韓国的高校生はボディービルダーのように筋肉隆々とした体格で10秒台～11秒前半。対戦結果も予選の順位どおり3位・4位。

女子：予選で韓国の2選手と清水が12秒9前後と拮抗、平井は13秒台。準決勝では先行する清水を競走路外と思しき内側から韓国の選手が抜く荒技に敗退。清水3位、平井4位。

<個人パーシュート>

男子大学生：原田・原井とも、5分8秒台で2・3位。

男子高校生：沢田3分37秒台・橋本3分39秒台で1位・3位。

女子：江藤・細谷とも2分44秒前後の僅差の1位・2位。

<1kmタイムトライアル>

男子大学生：松本1分7秒台、野上1分8秒台で1・2位

男子高校生：沢田1分8秒台と悪くなかったが、韓国選手が2人とも7秒台と上回り3位。今村は10秒台で4位。

<500mタイムトライアル>

女子：細谷は38秒4で2位、39秒台の清水は4位。

<チームパーシュート>

男子大学生：原田・小原・野上・原井と普段団体追抜きを走らない選手で編成したが、韓国が崩壊気味になり、追抜勝ち。

<チームスプリント>

男子高校生：力は韓国が上と予想され、その通りの結果であるが、沢田の1kmより劣る記録となる失敗の走りとなった。

女子：500mの結果からは韓国が強いと思われた。しかし相手はチームワークが乱れ1秒の差をつけて勝った。

<ケイリン>

松本のみ前に出たが、他の日本選手2名は前に行けない。最終周回再び韓国選手2名が松本をかわし前が出る。松本は最終コーナーでその2名をとらえるべく外にラインを変えると3人目の韓国選手に内側に入られてしまい、韓国選手が1位～3位を独占。

(別紙5)

<女子スクラッチ>

スタート直後から代わる代わる日本選手がアタックし、終盤に古山と韓国選手1名が先行する。後ろから江藤・平井が追う。3対1になるべく江藤らが追いついた瞬間にペースが上がってしまい追走に足を使った江藤らは遅れ、韓国の選手が2位になったが、対抗得点のある5位までのうち1・3・4・5位を日本選手が占めた。

<男子ポイントレース>

日本は5位までのうち1・2・4・5位となった。



⑤世界大学選手権自転車競技大会派遣事業

派遣大会名—[第1回 アジア大学選手権ロード](#)

派遣先—韓国 慶尚南道 昌寧

派遣期間—平成27年7月24～25日

・クリテリウム

クリテリウムらしくはない20%近い勾配の登りと下りのみの1.8km周回コースで行われた。

女子 20周5周毎のポイントレース方式。 厳しい登りのせいで1回目(5周目)のポイント周回までに樫木を含む4名の先頭集団とそれ以外のバラバラになって走る選手と言う構図。間もなく一桁順位で走っていた中井が落車。2回目のポイント周回(10周)時点で走路上には4名の選手しか居ない。樫木は遅れながらも4位で走りきった。斎藤9位、谷17位、中井DNF

男子 30周6周毎のポイント方式。 1周目馬渡が先頭で戻ってくるが、厳しい登りでばらばらとなり日本選手は2周目には先頭集団に誰も居ない。10周するころに

(別紙5)

は日本選手は全員降ろされてしまった。最後は女子同様4名しか走っていない。途中まで全員をラップしそうだったオーストラリアのMonkをフィリピンCayubitが逆転し優勝。 富尾22位、小玉23位、伊藤26位、馬渡31位、小林34位、猿田36位



・ロード

女子 80km。クリテで優勝したドイツのKasperはワールドカップ上位入賞のプロ選手。一つ目の登りで先頭は5名樫木が付いて行っている。6つ目の登りの途中で樫木が遅れる。下ると残り40kほど緩い登りが続く。無理して登りについて行った樫木のスピードが落ちる。齊藤とコスタリカの選手との2名に抜かれる。コスタリカの選手が前に出たがらないので齊藤が途中でアタックを繰り返すが引き離せない。この動きでスプリントなら齊藤に分がありそうな事を確認出来たが、齊藤はゴール地点を間違えてしまい6位に終わる。樫木8位、中井12位、谷DNF。

男子 40k下り基調を進み、女子のスタート地点からは女子と同じコースの120km。市街地からのスタートし、時速60kを超えて走る隊列に無関係の車やオートバイが入ってきたが、市街を離れるとようやくロードレースらしい隊列となった。登りの前の10数人の逃げに小林が入り、メインと1分以上開く。登りでメインが追いつきカウンターで先行した選手で上位が決まってしまった。この最初の登坂で猿田が遅れる。2つ3つと登るうちに小林、富尾も遅れる。5つ目の登りで馬渡も遅れ、メインには伊藤だけが残る。メインと言っても最後には6名程しか残っていないため先行には追いつけず、伊藤はスプリントで9位。馬渡17位、富尾27位、小林30位、小玉、猿田DNF

(別紙5)

・MTBクロスカントリーエリミネーター

女子 相野田は予選のTTで4位。準決勝を1位で勝ち上がり、決勝ではドイツとポーランドには負けたが3位銅メダル。

男子 前田も予選のTTで4位から準決勝。スタートは前を取ったが落車し3番手で後半へ、下りスラロームでポーランド選手が落車し2番手となる。2位上がりなので抜かせないクレバーな走りで決勝へ進んだ。決勝は、地力通り3位銅メダル。

・MTBクロスカントリー

女子 5周 落車もあり、ドイツとポーランド2名に続く4位。

男子 7周 スタートで弾かれたものの1周目は4名の先頭パックで走る。しかしドイツやポーランドの選手にパワー負けして4位。

大会全般として欧州選手との差を感じたが、アジアでは十分通用した。しかしモンゴルとフィリピンは順調に強化が進んでいる印象である。



3. 強化事業

1. 強化合宿

ア. 室内競技強化

実施場所—大阪 関西大学

派遣期間—平成27年9月19～21日

2. 国内屋内型競走路合宿事業

トラック競技における競走路は屋内型 250m 木製競走路が国際標準となっており、特に周長が競走形態に与える影響は顕著であり、海外で行われる国際大会において上位入賞するためには、同様の競走路での訓練が必要不可欠であることから、国内において唯一の屋内型250m木製競走路である伊豆ベロドロームにおいて、リオ五輪を見据えて合宿を実施した。

3. 競技用機材等整備費

競技機材である自転車はその素材や形状について、各国が技術の粋を競っている状況である。機材（自転車のパーツ等）についても大会出場や練習による劣化や損傷が

(別紙5)

避けられないため、強化指定選手が使用する機材について、整備を実施した。

2 予想される事業実施効果

東京オリンピックで、自転車競技でメダルを獲得するには、世界選手権で8位以内に入賞する事の関係性が高く、この世界選手権8位入賞を目標に世界選手権大会をはじめとする国際大会の全種目に選手団を派遣し経験を積む。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

無し

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

無し

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 公益財団法人 日本自転車競技連盟（ニホンジテンシャキョウギレンメイ）

住所： 〒141-0021

東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル5F

代表者： 会長 石崎 聖子（イシザキ セイコ）

担当部署： 選手強化部（センシュキョウカブ）

担当者名： 林 富士夫（ハヤシ フジオ）

電話番号： 03-6277-2690

F A X： 03-6277-2691

E - m a i l： hayashi@jcf.or.jp

U R L： <http://jcf.or.jp/>